

平成29年2月16日

各位

公益財団法人 大山健康財団  
理事長 竹内 勤

## 平成28年度「第43回大山健康財団賞」及び「大山激励賞」受賞者 並びに「第43回学術研究助成金」受贈者決定のお知らせ

大山健康財団は、このほど平成28年度の「第43回大山健康財団賞」及び「大山激励賞」受賞者各1名、並びに「第43回学術研究助成金」受贈者8名を下記の通り決定しました。「大山健康財団賞」は、発展途上国で長年医療協力を尽くし、特に感染症対策に尽力した医療関係者に賞状、記念メダル、副賞を贈呈するもので、「大山激励賞」は、発展途上国で短期間ながら医療協力を尽くし、特に感染症対策に尽力した医療関係者で、今後とも発展途上国においてなお一層の活躍が期待される方に賞状及び副賞を贈呈するものであります。

また、「学術研究助成金」は、大学、研究所、病院などにおいて、感染症に関する基礎的あるいは臨床的研究及び疫学的研究、特に発展途上国における疫学的研究（一般細菌感染症、ハンセン病、リケッチア症、寄生虫病）に従事されている若手研究者より申請のあった研究課題の中から選考された研究課題に対し助成金を贈呈するものであります。

なお、贈呈式は平成29年3月16日（木）午前11時30分から霞が関ビル35階霞ヶ関東海倶楽部（東京都千代田区霞が関3-2-5）で各賞並びに助成金併せて執り行います。

記

## 平成28年度「第43回大山健康財団賞」

（敬称略）

【受賞者】 いちもり かずよ  
一盛 和世 元 世界保健機関(WHO) 専門官  
長崎大学熱帯医学研究所 客員教授  
同研究所 フィラリア NTD 室 室長  
PhD （満65歳）

### 【業績内容】

一盛和世氏は、玉川大学農学部を卒業後、東京大学医科学研究所でフィラリア症を研究され、英国ロンドン衛生・熱帯医学大学大学院で博士号を取得されたあと、ケニア、タンザニア、およびグアテマラで熱帯病の対策、マラリア総合予防対策プログラム、ツェツェバエ、ブユ、及び蚊の研究に従事された。

1992年から2013年まで、世界保健機関（WHO）に勤務され、熱帯病部門で昆虫媒介病対策、中でも媒介昆虫の総合的なコントロールと管理分野を担当され、特に、西太平洋の島嶼国、サモア、バヌアツ、及びフィジーなどにおけるリンパ系フィラリア症の制圧プログラム（PacELF）を担当され、多大な成果を挙げられた。

現在、熱帯病の多くはその根絶、制圧に向けて対策が進められているが、特に、顧みられない熱帯病（Neglected Tropical Diseases : NTD）の一つであるリンパ系フィラリア症（LF）については、一盛氏の活動成果などを基礎として WHO は世界制圧計画を策定し、蔓延国政府、ドナー、NGO、製薬会社、大学、研究機関等によるグローバルレベルでの産官民学連携パートナーシップによって、人類の一大事業として、着実に制圧目標へと歩みを進めている。

一盛氏は、WHO 退職後も今なお WHO の世界リンパ系フィラリア症制圧計画のもとに、2020 年までの制圧目標を達成するべく拠点の一つとして長崎大学熱帯医学研究所にフィラリア NTD 室を開設され、日本にもかつて蔓延していた LF を根絶することに成功した経験を活かし、グローバルな視野を持って世界と協議してこの制圧計画に貢献できる人材の育成に尽力されている。

## 平成 28 年度「大山激励賞」

(敬称略)

【受賞者】 <sup>まちい えり</sup> 町井 恵理 NPO 法人 AfriMedico 代表理事  
薬剤師 (満 39 歳)

### 【業績内容】

町井恵理氏は、日本の伝統である置き薬のシステムをアフリカに応用することにより、保健施設へのアクセスが限られる遠隔地や貧困地区などの住民が医療サービスを継続的に享受できる体制を創ることに尽力されている。

これは WHO が推奨する Drug Revolving Fund (回転式薬剤供給制度) を一歩進めた形のビジネスモデルとして、特に住民自身が薬の提供者でもあり、受給者でもあるというコミュニティのオーナーシップを尊重した非常に自立発展性の高いシステムを目指しているという特徴がある。これは、町井氏が薬剤師でもあり、2006 年から国際協力機構 (JICA) 青年海外協力隊として感染症対策の職種で 2 年間派遣されたニジェールでのご自身の経験から導き出されたもので、極めてユニークな活動である。

さらに、この手法の持つ特徴の一つとして、薬を処方し服用する過程で、住民自らが「病気になるように」努力するようになる健康教育の側面が挙げられ、このような健康を維持する努力を喚起することによって、将来的には国家の総医療支出を抑制するという大きな可能性を持っている。

2015 年 9 月の国連総会で策定された「持続可能な開発目標」の中で国際社会は「すべての人々が支払い可能な形で保健サービスにアクセスすること」つまり「ユニバーサルヘルスカバレッジ」を推進することで合意したが、この流れの中で 2016 年 8 月にナイロビで開催されたアフリカ開発会議 (TICAD VI) において安倍首相自らが「ユニバーサルヘルスカバレッジのアフリカでの推進」を宣言しており、まさに AfriMedico の取り組みは、このようなグローバルな潮流の最先端を行く活動だといえる。

町井氏は、このようにアフリカの現地での原体験、専門家としての技術力、日本の伝統の再興、革新的なビジネスモデル、そして協力者との団結力などによって、アフリカをさらには世界を変えて行く可能性を秘めた素晴らしい活動に尽力されている。

# 平成 28 年度「第 43 回学術研究助成金」受贈者

(敬称略)

氏 名	所属・役職	研 究 課 題	金額 (円)
あらい やすゆき 新井 康之	米国国立衛生研究所 アレルギー感染症研究所 博士研究員	STAT1 機能獲得型変異による慢性粘膜皮膚カンジダ症に対する CRISPR システムを用いた新規治療開発	100万
いわき たかお 岩脇 隆夫	金沢医科大学 総合医学研究所 生命科学研究領域 教授	サルモネラ菌感染が引き起こす宿主細胞内における小胞体ストレス応答の意義	100万
かとう ひろとも 加藤 大智	自治医科大学医学部 教授	リーシュマニア症の迅速・簡便な分子診断法の確立と応用	100万
さかぐち よしひこ 阪口 義彦	北里大学医学部 講師	バクテリオファージと溶菌酵素を用いたクロストリジウム・ディフィシル感染症の新規治療法の開発	100万
たかだ けんすけ 高田 健介	北海道大学 獣医学研究科 准教授	核内受容体間の競合を介した細胞性免疫記憶形成機構の解明とワクチン療法への応用	100万
ほしな ときお 保科 斉生	東京慈恵会医科大学 熱帯医学講座 助教	活動期トキソプラズマ感染症の検出に向けた新規血清学的診断法の開発	100万
まえじま やすひろ 前嶋 康浩	東京医科歯科大学医学部 附属病院循環器内科 講師	歯周病菌の感染が糖尿病による心筋障害とマイトファジー制御系に及ぼす影響の解明	100万
よしかわ そういちろう 吉川 宗一郎	東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 助教	好塩基球による抗マダニ免疫作用メカニズムの解明	100万
			800万

問合せ先：公益財団法人 大山健康財団 事務局  
東京都江戸川区平井5-29-4-202  
電話 03-3614-7762

以上